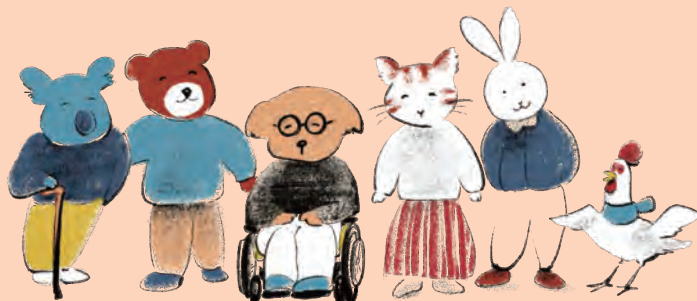




外国人高齢者問題

金 周 萬

現在日本における滞在（中長期・永住）外国人数は、2020年度時点で288.6万人に上ります。

外国人の人口が急増する中で、外国人の子どもが増えている現状やその課題の報道や問題提議は目にすることがありますが、最近、外国人高齢者の隠れた問題も徐々に報道されるようになってきました。

2020年2月27日の「NHKクロズアップ現代」で『60代の孤独死 団地の片隅で ～外国人労働者の末路～』が放映されました。私もたまたま視聴することができましたが、痛ましく悲しく、落涙せざるを得ませんでした。親の世代の苦労を見てきた私（現在72歳）にはその姿がかぶって見え、在日高齢者の孤独死のことが思い出され、日本は何も変わっていないと憤りのようなものさえ覚えました。

いささか古い記事になりますが、2019年10月24日「NHK生活情報ブログ」の『日本人よりも増加!? 外国人高齢者の老後をどう支えるか』という記事では、全国に住む外国人のうち65歳以上の高齢者は2019年1月時点で約17万1000人、外国人人口の6%程度にあたります。これを5年前、2014年1月と比較すると、外国人の高齢者は24%（日本人10.86%）増加しています。すべての都道府県で増加しており、さらにこのうち43の都道府県では15%以上、さらに21の都・道・県では30%以上と急増しているのです。（2019年住民基本台帳のデータ）

因みに1000人以上上昇した都道府県のうち、上昇率1位は埼玉県の55%（小数点以下四捨五入）、2位千葉県50%、3位静岡県44%、4位神奈川県32%、5位東京都30%と続きます。愛知県は22%、大阪府は15%、京都府は13%となっています。

2021年2月愛知県が多文化共生推進室と「外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクトチーム」が協力して調査とまとめ作業を行い、『愛知県外国人高齢者支援事業 外国人高齢者に関する実態調査報告書 ～ともに老い、ともに幸せな老後を暮らすために～』を発表しました。

この調査の背景・目的では、「様々な多文化共生施策を行ってきたが、高齢化に対する取組

はほとんど行ってこなかった。今後さらに高齢者の割合が増えていくことが予想される中、対策に早急に取り組むことが必要となっている。そこで、外国人高齢者の実態を調査し、外国人高齢者と介護に関する現状や課題、ニーズなどを把握するとともに、今後の施策の方向性や具体的な取組を検討する必要があると考え、外国人高齢者支援に先進的に取り組んでいる団体・個人を対象に、ヒアリング調査を実施した。また、外国人高齢者が介護サービスを受ける際の窓口となる、県内の地域包括支援センターに対して、外国人高齢者への対応についてアンケート調査を実施した」とあります。この調査のヒアリング対象には「NPO法人 京都コリアン生活センター エルファ」が含まれ、「京都モアネット」の活動も紹介されています。

中でも私が感心したのは（羨ましかったのは）、行政との協働による実態調査アンケート活動です。行政の要請を無視する地域包括センターはありませんし、より正確で数量的にも確かなデータを得ることができます。現実的なニーズの発見と課題を整理できる信頼性の高い基礎資料になり、説得性が高まると思います。モアには限定的な地域ではありましたが、高齢者アンケート調査の実績と経験があります。行政を説得し、やれないことではないという希望が湧いてきます。次のステップは多言語介護通訳派遣事業かな（トヨタ財団450万円助成実績あり）などと夢を持つことができました。多くのことを学べると思いますので、まだお読みでない方は、ぜひ読まれることをお勧めします。

参考資料

外国人高齢者国別順位（2020年末外国人登録統計）					
	全年齢	65歳以上	75歳以上	85歳以上	65歳以上人口割合
総数	2,887,116	197,197	76,090	42,159	100.0%
1 韓国・朝鮮	454,122	130,175	59,387	30,018	66.0%
2 中国・台湾	833,984	29,400	7,469	3,964	14.9%
2 ブラジル	208,538	10,407	1,592	443	5.3%
3 アメリカ	55,761	7,799	3,169	2077	4.0%
4 フィリピン	279,660	3,761	356	174	1.9%
5 ペルー	48,256	3,175	569	775	1.6%

※総数は日本籍除く・技能実習・留学生等含む

外国人居住地域別順位（2020年末外国人登録統計）					
	外国人総数	韓国・朝鮮	中国・台湾	ブラジル	フィリピン
総数	2,887,116	454,122	833,984	208,538	279,660
1 東京都	560,180	94,656	243,218	3,863	33,736
2 愛知県	273,784	30,470	50,090	60,181	39,142
2 大阪府	253,814	98,748	73,514	2,769	9,390
3 神奈川県	232,321	29,165	78,231	9,232	23,202
4 埼玉県	198,235	17,112	77,980	7,438	21,410
12 京都府	61,696	23,985	17,189	615	2,435

第16回総会報告

2021年8月19日、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンで開催しました。コロナ禍を踏まえて運営委員と多文化福祉委員のみ、11名が集まりました。

最初に事務局から2020年度の事業・会計報告をしました。コロナ禍の中でもやれる範囲で活動を続ける中、夫を亡くしたコリアンのニューカマーの支援が目立ったことや、モアの活動に関心を寄せる研究者からの問い合わせ・来訪が多かったことが報告されました。

2021年度については、コロナ感染の収束が見えないが、こんな時こそアウトリーチ（当事者に対して支援が必要だと考え、支援者側からアプローチすること）を大切にしていきたい、2020年度に実施できなかったセミナーは開催時期を検討中との報告がありました。

意見交換では、運営委員から、コロナに関して10団体にヒアリングをしたら若い世代、稼働年齢層、歓楽街で働く外国人が打撃を受けているという結果が出た。モアは高齢者・障害者が対象なので稼働年齢層とは違うかもしれないが、コロナによる影響はどうか、という質問があり、事務局から、就労への打撃というよりはコロナによって心の問題を抱えた人が多く、モアネットの傾聴活動に繋がっていると報告しました。また、モアネットのアウトリーチの事例として、最初は訪問を拒んでいた人に時間をかけて心を開いてもらうような話を市担当者に伝え、活動に対する行政の理解を深めてもらいたいとの要望がありました。



総会のような様子

次に、多文化福祉委員から現在の活動状況を報告しました。高齢のコリアン2世の男性、女性を訪問し傾聴。理髪店同行。ニューカマーの女性の手続きや通院同行。アメリカ人独居高齢男性を訪問し母語で話し安らぎの時間を持つ支援。コリアンルーツで障害のある人の支援。東部障害者地域生活支援センターとの連携などが報告されました。

最後に現運営委員から、新運営委員として、同志社大学社会学部教員のマーサ・メンセンディークさん、京都同胞生活センター代表の金賢一さん二人の推薦があり、了承されました。（事務局・井上）

京都モアネット 2020年度 事業報告

1. 多文化福祉委員の派遣

2020年度は16人の多文化福祉委員が64人に対して、のべ1301件の生活支援を行いました。自宅を訪問し、安否確認や簡単な日本語でおしゃべりや傾聴、生き甲斐支援などをしました。また、孤立しがちな人については、介護保険事業所やその他の関係機関と連携しながら定期的に訪問し、見守りを行いました。そのほか、日本語が話せない対象者について、医療・福祉・住宅関係者との通訳や、母語で傾聴をしました。関係機関から電話で問い合わせがあった場合は、情報提供をしたり、解決方法を一緒に考えることもありました。

2. 多文化福祉委員の研修・充実化

現在活動している多文化福祉委員を対象に毎月「お茶会」を行い、活動報告・情報交換・医療・福祉や他地域での外国人支援に関する学習を行いました。

3. 外国籍住民理解に向けての啓発活動

1月にパンフレットを一新。Facebookを立ち上げました。パンフレットでは啓発動画をQRコードで見ることができるようになりました。京都市介護ケア推進課に協力を仰ぎ、3月に発行した第14号通信とパンフレットを、社会福祉協議会、地域包括支援センター、障害者地域生活支援センター、関係者等に送付しました。

4. 他の外国人支援団体との連携

京都市国際交流協会の「きょうと多文化支援ネット」に事務局メンバーが参加し、在京外国人グループの動画紹介づくりに協力しました。

きょうと多文化支援ネットワークホームページ

<https://www.kcif.or.jp/HP/jigyo/katsudo/jp/shien-net/>

多文化福祉 委員（一部）の 活動紹介

現在も続いている活動、最近支援が終了したものの中から、いくつかをお伝えしたいと思います。支援のきっかけ、かわりの中で起こった変化、既存の福祉サービスではできない支援など、モアネットの活動ならではのエピソードです。

★文化的背景がちがっても、自分らしく生きることのできる生活を応援します～

●多文化福祉委員～一緒に活動してみませんか？

外国にルーツのある高齢者や障害のある方を対象に、関係機関や家族、ご本人からの依頼に応じて、ご自宅を訪問、あるいは電話や来所にて相談をお聞きし、活動を行います。

外国語ができなくてもOK。日本に長年滞在されていて、日本語がわかる方も多くおられます。

文化的背景がちがうため、日本の制度が分からなかったり、難しい日本語が理解できないため、生活に困ることがあります。

★交通費程度の活動費が支給できます。

★簡単な講座を受けていただき、登録の上、必要時に活動いただきます。

●活動内容

- ①電話相談：電話でご相談をお聞きします
- ②傾聴活動：来所や自宅にてゆっくりお話を聞きます
- ③その他の支援：既存のサービスや制度ではまかなえない部分の支援～病院や役所などの手続きを一緒におこないます
- ④通訳：医療機関や役所等で、ご本人の意見や思いを通訳し、安心して利用できるようお手伝いします

〇さん ～10年のお付き合い、現在90歳～

大阪生まれの在日二世男性〇さんは、70歳まで土木の仕事をしておられました。72歳のとき脳梗塞で左半身に麻痺が残り、その後奥さんが病死され、2012年に住居のことで介護保険担当者からモアに相談があったことから訪問が始まりました。

飄々とした自由人の風貌から渥美清の「フーテンの寅さん」を思わせるので、モアの支援者の間でニックネームは「とらさん」。訪問が始まった10年前は、セニアカーに乗って近所のスーパーやカラオケに出かけたり、家で肉を焼いて缶チューハイで一杯やったり、とそれなりに生活を楽しんでおられました。でも80代後半になって左半身の痛みが増し、日常生活で思うようにいかないことが増えたようで、人生への諦めや愚痴を聴くことが多くなりました。

その頃、私の韓国人の友人が京都に来て、一緒に訪問を希望。しかしとらさんは子どもの頃差別を受けた体験から、自分のコリアンルーツに関しては口が重く、韓国人の訪問も、私に言われてしぶしぶの承諾でした。

当日、音楽好きの友人がギターを持って「韓国の歌を歌いましょう」と促しても「韓国の歌は知らん。ワシは裕次郎の歌が好きや」とつれない返事。とら

さんの歌う裕次郎の歌に、友人は即興でギター伴奏をしたあと、アリランやトラジなどを弾き歌ってくれました。すると突然とらさんが背筋をぐっと伸ばして「題名は知らんけど、こんな歌、あるか？」と韓国語で歌い出したのです。友人はすぐに「あ、ナグネソルムですね！」とギターと歌で続けました。あっけにとられる私をよそに、友人が「アボジ、お名前を教えてください」と言うと、とらさんは何とも言いえない優しい表情になって、今まで私が聞けなかった韓国名を教えてくださいました。

この日を境に、とらさんは私にコリアンルーツに関する話もされるようになりました。40代の頃一度故郷の墓参りに行ったこと、土木の仕事で朝鮮人の仲間とのつきあいのことなど…。今年90歳を迎えられ自宅での生活が難しくなり、やむを得ずグループホームに移られることになったとらさん。コロナ禍が落ち着いたら会いに行けることを待ち望んでいます。 (と)



Mさん

～約2年半関わって、帰国することになり支援が終了しました～



通訳をしてほしいと主治医より依頼があり、2017年から通院同行が始まりました。抱えていた腰の痛みが脊椎狭窄症からくると、手術で症状が治まることを主治医が本人に説明するためでした。

「手術」という言葉だけに反応して拒絶していたMさん。医師の説明を韓国語で訳すとすんなり承諾し、手術を受けることになりました。診察中、わたしに「先生の顔、正面から初めて見たよ（いつもパソコンに向いていたのだろう）。笑うんだね」と、韓国語でこぼすのを聞き、これまでの診察中の様子が伺えました。さて、術後数日は動けません。「トイレに行きたい」「痛い」「眠れない」「のどが渴いた」など、看護師への訴えカード（裏に韓国語、表は日本語）を作って渡しました。

はじめは看護師も戸惑っていましたが、お茶目で愛嬌のあるMさんがカードとジェスチャーで伝える中、互いに打ち解けていきました。他の病院では間違っただけで認知症のお薬を処方されていることに驚きました。

台風で衛星放送に不具合が起きる、公共料金を払いそびれた…生活のあらゆる場面で困っても、自分で処理できません。解決するにはWEBサイトか、電話がほとんどで、ややこしいガイダンスをかいくぐって直接通話にたどり着くのは、わたしでもややこしいのに、高齢者、ましてや外国人となると想像に余ります。上の階から水漏れで往生した時も、上階の人や管理会社とのやりとりに四苦八苦でした。

最後は韓国にいる家族の希望で帰国となったMさん。引っ越しに、韓国まで家財道具を運ぶわけにもいかず、残置物処理はモアで行いました。今は釜山で家族に見守ってもらって安心して過ごしておられるでしょう。（な）

アメリカ人高齢者、Dさん

～約2年のおつきあい。現在76歳～

Dさんは脳梗塞によって自力で移動することが難しくなったため、友人や介護保険担当者が通訳を希望して、国際交流協会→介護保険課経由で連絡が入りました。でもその時は関係者とDさんとの間で何とか直接コミュニケーションが取れたため、モアネットの支援はなしになりました。3年後、脳梗塞を再発し、医療介護関係者が多く関わるようになって、第2言語である日本語が分からなくなってきたDさんへの通訳をと、再度依頼がありました。

Dさんの「想いが通じない」ストレスはだんだん大きくなっていました。私たちが頻繁に通訳しに行くことはできないので、時々訪問して英語でおしゃべりをすることにしました。

最初の頃、Dさんはストレスが強いと言葉が荒くなり、私たちはどのように声掛けしたらいいか戸惑っていました。徐々に訪問メンバーを増やし、毎週2人で行けるようになりました。ヘルパーやケアマネー

ジャーと私が情報共有し、もう一人が英語でDさんに話しかけます。関わるうちに、Dさんが「支援される人」ではなく「友人」として私たちと普通に話

たいんだと分かりました。Dさんが昔元気で世界を飛び回っていた頃のことや政治の話をする時、Dさんは表情が生き生きし、意識がはっきりします。また、検温する時、医者を呼ぶ時など、必ずDさんの確認を得ることが必要だと知りました。

生活スタイルや考え方は一人ひとり違うこと、どんな状況であっても人生を楽しめることなど、当たり前で大切なことをDさんから学びました。今は中国からの留学生やアーティストなど個性豊かなメンバーがDさんとのひと時を楽しみに訪問しています。（み）



Yさん

～福祉委員が交代しながら5年間関わりました。現在50歳代です～

訪問予定の1時間前に携帯が鳴り、「お茶をガブ飲みして大変なことをしてしまった気がする。できれば今来て話を聴いてほしい」というYさんの切羽詰まった声に、予定を繰り上げて駆け付けました。ゆっくり話を聴いているうちに落ち着かれ、好きなジブリ映画のことなどおしゃべりすると笑顔が出ました。

一人で手持無沙汰なときにお茶をガブ飲みしてしまうのを防ぐために訪問看護師さんが一日のお茶の量を記入する表を作られましたが、少しでもそれを超えて

飲んでしまうと、落ち込んでしまうそうです。時には、超えてないのに超えたと勘違いして気が滅入る時もあり、そんな時そばで一緒に表を確認すると安心されます。

「一人でいると寂しいから電話したんです…」と、しば

しば連絡が来て、2、3分話していると「ありがとう」と言って切られます。気が滅入りそうな時に人ちょっと話すことが、Yさんの気持ちを和らげているんだなあ、とつくづく感じていました。

ある時、私が母の法事のためいつもの訪問日を休んだことがありましたが、その翌週に行ったとき「先週も電話したかったんだけど、お母さんの法事で忙しくてはるやろうな、と思って我慢した」と言われ、その心遣いに私の心が温まり、お礼を言ったこともありました。

「寂しくなくなるために、結婚したらいいかな？」という言葉聞いて、「結婚願望をこんなにストレートに言えるなんてYさんらしいなあ、でもそんな簡単には…」と案じる私などは尻目に3ヶ月後には相手を見つけれられて、籍を入れ新居に引っ越され、モアの私の支援は終了することになりました。お二人の幸せを祈っています。(い)



Hさん

～関わって約1年、81歳で亡くなり、その後家族とやりとりを経て終了しました～

息子が釜山からHさんの誕生日に合わせて来日中に訪問。Hさんは体調を崩し布団から起き上がれません。私たちが入院を勧めてもなかなか受け入れず、最後は息子さんが泣きながら嘆願しようやく救急搬送できました。退院後も1日のほとんどを布団で過ごしていましたが、介護サービスは断固拒否。「自分で何とかできる」の一点張りでした。

モアネットで週に1回訪問し、買い物や、生活費払い戻し、支払い代行などをしました。住んでいた集合住宅1F薬局で買い物中に転倒した時も、救急車は呼ぶなと一歩も譲りませんでした。布団から立ちあがる時に度々転倒していたため、レンタルベッドを入れるよう説得し、やっとの思いでケアマネージャーにつなげられました。往診も受け入れるようになったところでコロナ感染が拡大。すると(こちらに気づかい)「来るな!」の一点張り。電話をかけたり、訪問したりを

繰り返す中、ある日ケアマネが訪問すると自宅でひとり亡くなっていました。コロナのため来日できない息子さんに経過を報告すると、電話の向こうで号泣していました。

それからは息子さんと国際電話とメールでやりとりしながら、委任状、血縁関係の証明書など必要書類を取り寄せ翻訳し、遺骨を韓国へ郵送、福祉用具の撤去、部屋の明け渡しなどを行いました。冷蔵庫を開けると息子さんから送られた韓国食材やキムチが臭いを放っていました。自分の生活を自分で必死に守ってきたHさん。自分らしさを頑固に貫いたHさんの生き方がこれで良かったのだと信じたいと思います。(す)



2020年度支援内容

福祉サービス 紹介・指導	介護 保険	受付相談	0
		サービス利用・内容	0
		その他	0
	生活保護		1
	高齢者福祉		0
	障害者福祉		1
	その他の保健福祉サービス		0
	小計		2
相談内容	安否確認		1125
	生活関係		1040
	家族関係		321
	人間関係		136
	生きがい相談（趣味活動）		145
	精神面		306
	経済面		35
	言語・コミュニケーション関係		112
	民族文化・歴史等		87
	健康（病気・体調）		891
	栄養食事関連		194
	その他		33
小計		4425	
関係機関との連絡調整	役所	福祉事務所	7
		その他（保健センター・健康保険関係等）	15
	自治会、地域団体など		1
	民生委員・老人福祉員		2
	社会福祉協議会		4
	介護保険関係		129
	障害福祉関係		32
	その他（ライフライン・医療関係・家族・近隣住民等）		206
	小計		396
	直接対応	緊急 対応	病院・診療所への連絡
		警察・消防署出動要請	0
病院受診同行・入退院手配など		34	
通訳（医療・行政・ライフライン等）		45	
家事援助		11	
身体介護		29	
生活支援（代読、代筆、外出同行、制度の説明など）		171	
小計		290	
合 計		5113	

対象者	64
活動した福祉委員	16
活動件数	1301
のべ支援内容*	5113

京都外国人高齢者・障害者 生活支援ネットワーク・モア収支報告書

(2020年4月～2021年3月) (単位:円)

科 目	金 額	
1. 収 入		
京都市助成金	1,120,000	
賛助寄付金	472,762	
助成金	192,000	
会費	6,000	
団体会費	0	670,762
預金利息	31	31
雑収入	0	0
当期収入合計 (A)	1,790,793	
2. 支 出		
1) 福祉委員派遣事業に係る費用		
・報酬費	733,500	
・上記に関する交通費	142,980	
・連絡調整費	247,300	
・通信費	53,912	
・事務費	16,268	
・賃借料	600,000	
・雑費	0	1,793,960
2) 福祉委員養成		
・活動費	222,361	
・交通費	0	
・雑費	0	222,361
3) ネットワーク強化		
・活動費	422,020	
・事務費	9,569	
・交通費	2,000	
・雑費	7,000	
		440,589
4) 啓発事業		
・講師料	0	
・活動費	113,500	
・事務費	5,400	
・交通費	400	
・通信費	0	
・雑費	0	119,300
当期支出合計 (B)	2,576,210	
当期収支差額 (A) - (B)		▲ 785,417
前期繰越額		1,742,077
次期繰越額		956,660

〒601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町12
京都コリアン生活センターエルファ内

京都外国人高齢者・障がい者生活支援
ネットワーク「モア」(京都モアネット)

TEL 075-681-2721 / FAX 075-693-2555

E-mail kyotomorenet@yahoo.co.jp

郵便振替口座：00990-4-314429

加入者名：京都外国人高齢者障害者生活支援ネットモア

♡支援カンパよろしくお願ひします♡

編集後記

コロナ禍、施設入所者にはリモート面会、自宅ではイン
ターフォン越しや玄関先、電話など、室内での傾聴以外に
いろんな工夫をしました。こちらがマスクをすると顔を認
識してもらいにくいこともあり、試行錯誤での活動。福祉
委員は、毎月のお茶会で情報交換し、互いの状況を知るだ
けでなく、抱えている課題への対応方法を一緒に考えます。
一人で悩まないこと、誰かとつながっていることは、誰に
とっても大事なことですな！ (み)